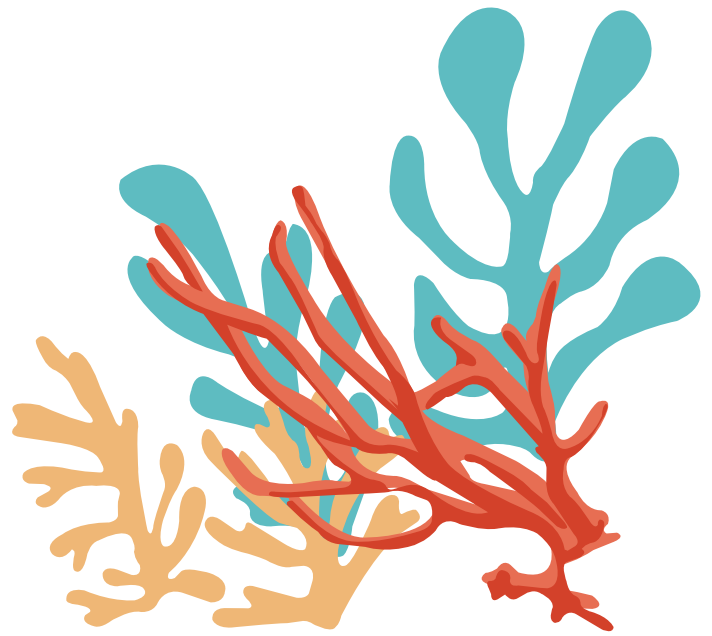




取締役頭取

大城 勇夫



## GREETING ごあいさつ

皆さまには、平素より、琉球銀行をご利用、お引き立ていただきまして、誠にありがとうございます。

今年も、多くの皆さまに琉球銀行をより一層理解していただくために、「琉球銀行の現状」(2011年版ディスクロージャー誌)を作成しました。

昨年度の国内経済は、おもにアジア向けの輸出に支えられ、年を通してみると概ね持ち直しの動きが続いたものの、平成23年3月11日に発生した東日本大震災の影響により年度の最終盤には持ち直しの動きが弱まり、先行きの経済・社会に与える震災の影響が強く懸念される状況となりました。

県内経済は、食料品や衣料品などの非耐久消費財が年後半には底堅く推移するなど、個人消費は一部で持ち直しの動きが続いたものの、建設が公共・民間工事ともに低水準で推移したことから弱含みの状況が続き、観光が景気の先行き不透明感による節約志向や羽田空港の国際化による海外旅行需要の高まりなどにより年度後半に弱含んだことから、全体としては後退の動きとなりました。

当行においては、平成22年度の経営目標に「営業・人材・機能革新のスピーディーな実践」を掲げ、チャンネルインフラの拡充、預金・預り資産販売の強化、法人取引における営業力の強化などに取り組んだほか、中小企業者を中心とした資金繰り支援に積極的に取り組みました。また、平成22年7月には、公的資金の返済を完了しました。

中期経営計画「RISING PLAN 2010」の2年目にあたる平成23年度は、年度の経営目標として「営業・人材・機能革新の深化」を掲げ、平成22年度に拡充したチャンネルインフラを有効に活用した顧客基盤の拡大などに積極的に取り組んでまいります。

当行はこれからも、金融経済環境の変化やお客さまのニーズに的確に対応し、良質な金融サービスを提供することで地域社会の発展に貢献し、地元沖縄になくてはならないリーディングバンクとしてお客さまから高い信頼と支持をいただけるよう努めてまいります。

平成23年7月